

第 2 章

府中市の子育て家庭の現状

1 子育て家庭を取り巻く環境

(1) 少子化の推移

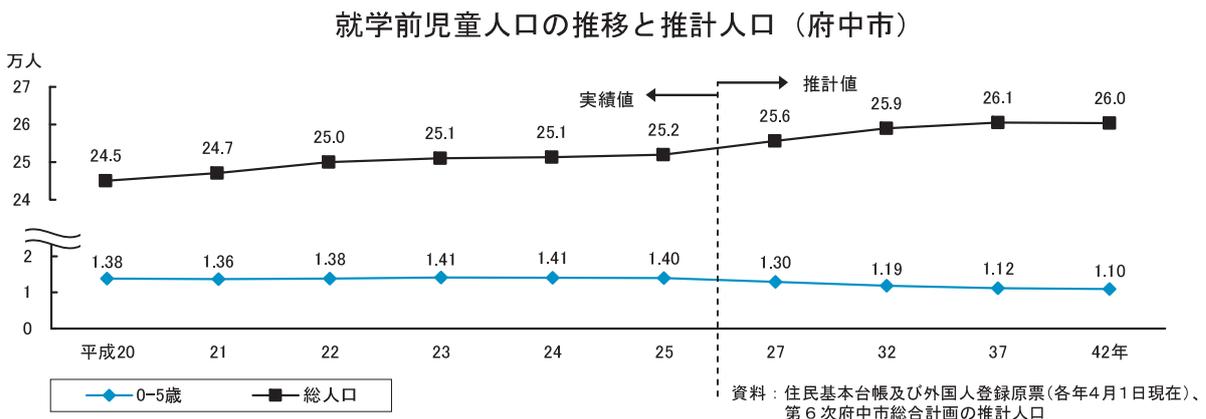
- 府中市の推計人口は、総人口は増加傾向にありますが、就学前児童（0～5歳児）人口については減少が見込まれます。
- 府中市の出生数は横ばいが続いているますが、合計特殊出生率は微増傾向にあります。

人口は増加傾向にあり、平成26年1月1日現在の住民基本台帳（外国人人口は除く）では、249,178人となっています。

全人口に占める14歳以下の割合は、昭和60年には20.4%でしたが、平成26年には13.8%に低下しています。一方、65歳以上の割合は、昭和60年の7.2%から平成26年には20.2%となっています。昭和60年には14歳以下の割合が65歳以上の割合を大きく上回っていましたが、平成13年に逆転し、以降、65歳以上の割合が14歳以下の割合を上回り、その差は開き続けています。

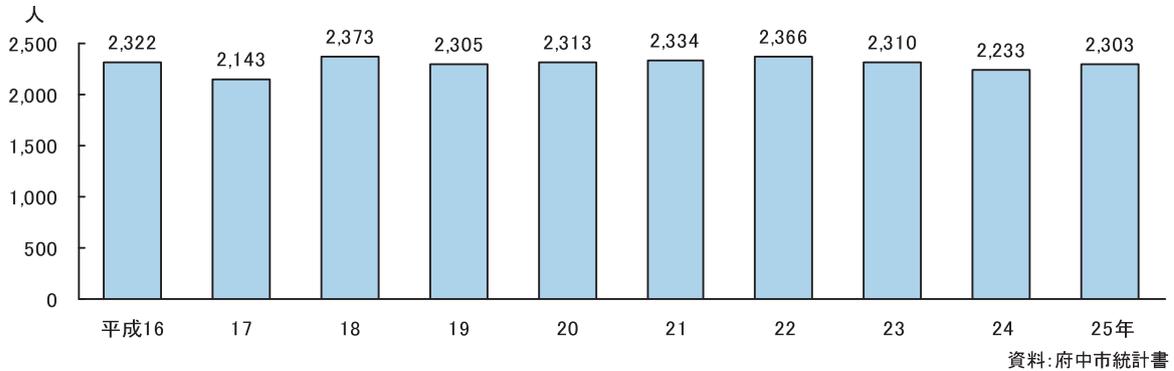


就学前児童人口は平成24年度以降、緩やかな減少傾向にあります。「第6次府中市総合計画」に基づく平成27年度以降の推計では、総人口は微増している一方で就学前児童人口は減少が見込まれます。



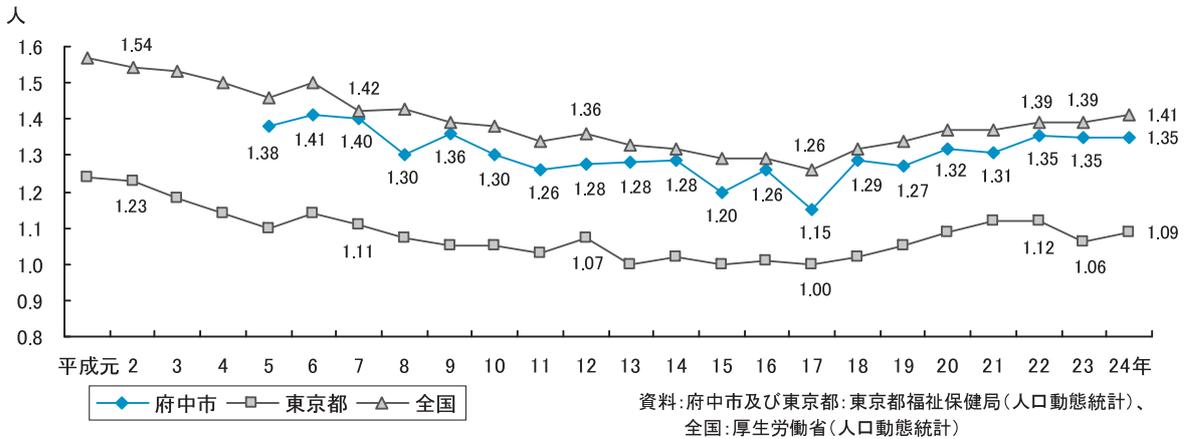
出生数は、この10年においては2,100~2,300人台の横ばいで推移しており、平成25年では2,303人となっています。

出生数の推移（府中市）



合計特殊出生率は、平成5年の1.38以降増減を繰り返しながら減少傾向にありましたが、平成17年以降は増加傾向に転じており、平成24年は1.35となっています。全国の1.41を下回るものの、東京都の1.09を上回っています。

合計特殊出生率の推移（全国、東京都及び府中市）



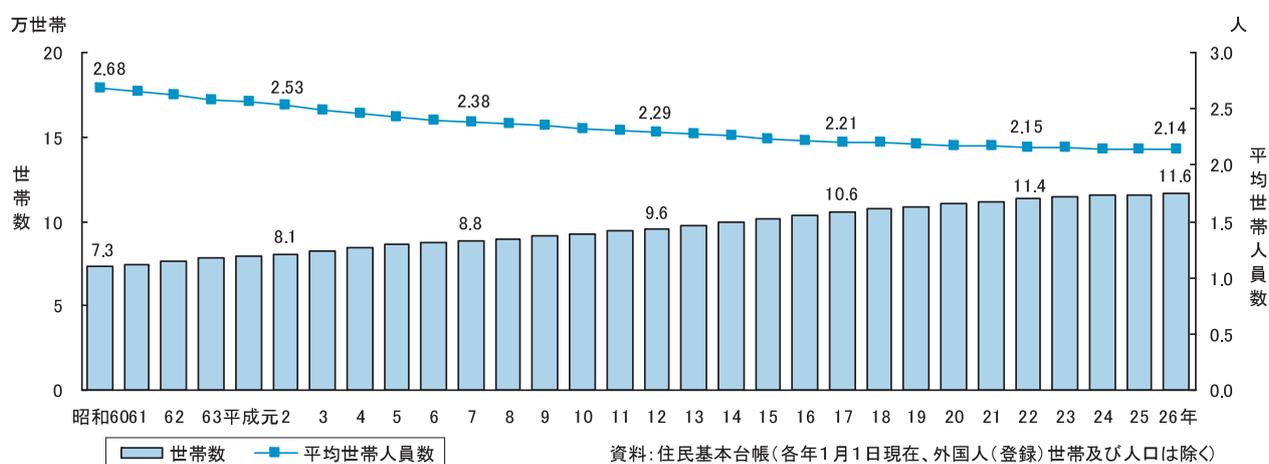
(2) 世帯人員数と世帯構造

- 府中市の世帯数は増加傾向にありますが、平均世帯人員数は減少傾向にあります。
- 府中市の18歳未満の子どもがいる家庭は、9割以上が核家族世帯となっています。

ア 世帯数と平均世帯人員数

世帯数は増加傾向にあり、平成26年1月1日現在では116,460世帯となっています。平均世帯人員数は2.14人で、核家族化の進展により減少傾向にあります。

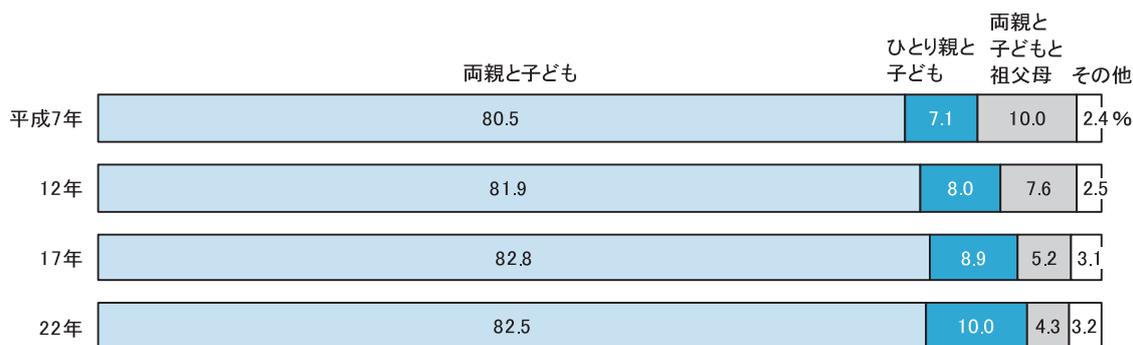
世帯数と平均世帯人員数の推移（府中市）



イ 世帯構造

18歳未満の子どもがいる世帯の世帯構造は、「両親と子どもと祖父母」といった3世代世帯の割合が減少し、「両親と子ども」及び「ひとり親と子ども」といった核家族世帯の割合が増えています。平成22年では核家族世帯が全体の92.5%を占めています。

18歳未満の子どもがいる世帯の世帯構造（府中市）

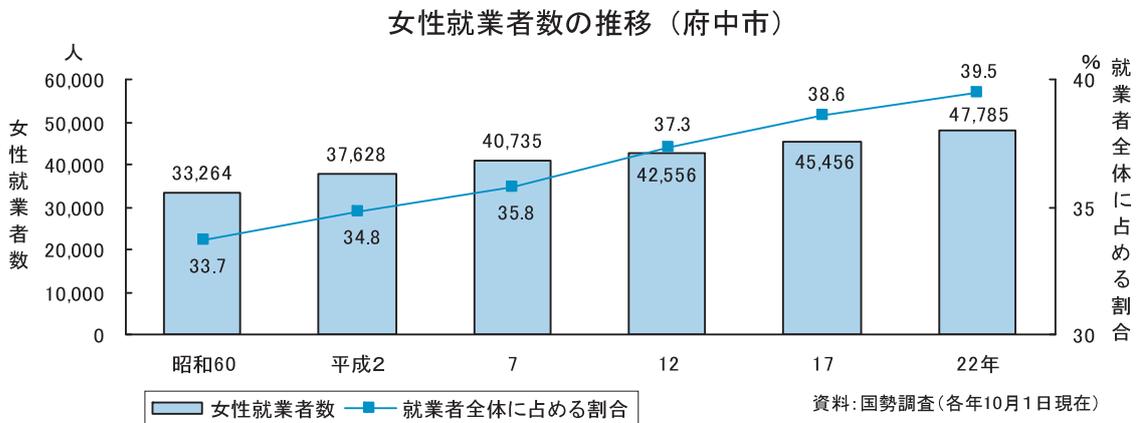


資料:国勢調査(各年10月1日現在)

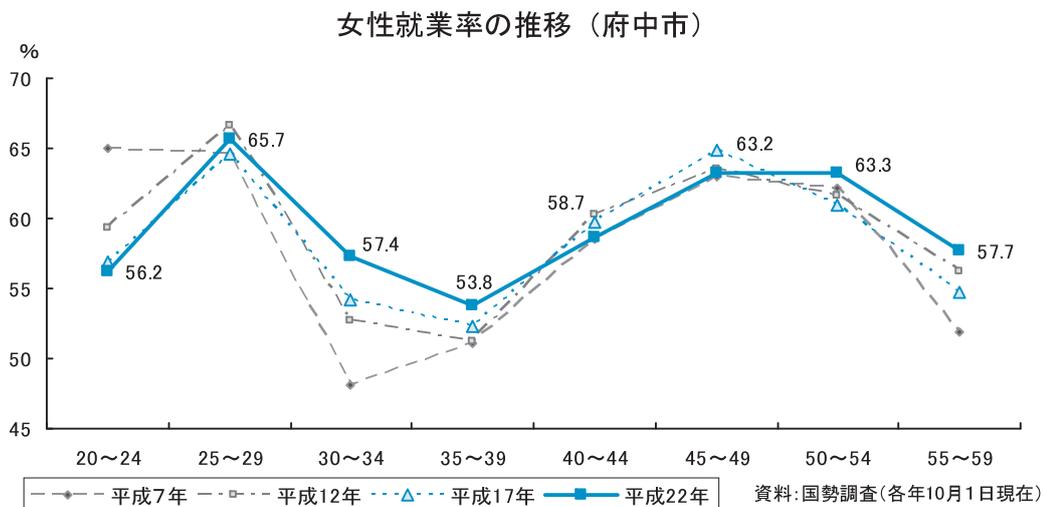
(3) 女性の就業状況

- 府中市の女性就業者数は年々増加し、就業者全体に占める割合は約4割となっています。
- 府中市の女性の子育て世代の就業率は高まっていますが、依然として35～39歳を底とした「M字型曲線」を描いています。

女性就業者数は増加傾向にあり、平成22年では47,785人となっています。就業者全体に占める割合は次第に増え続け、平成22年では39.5%となっています。



女性就業率は、30歳代を中心に結婚や出産を機に一度仕事を離れ、その後再び就業する「M字型曲線」を描き推移しています。また、子育て世代である25～29歳、30～34歳、35～39歳及び40～44歳のいずれも、平成22年では平成7年と比較して就業率が高くなっています。

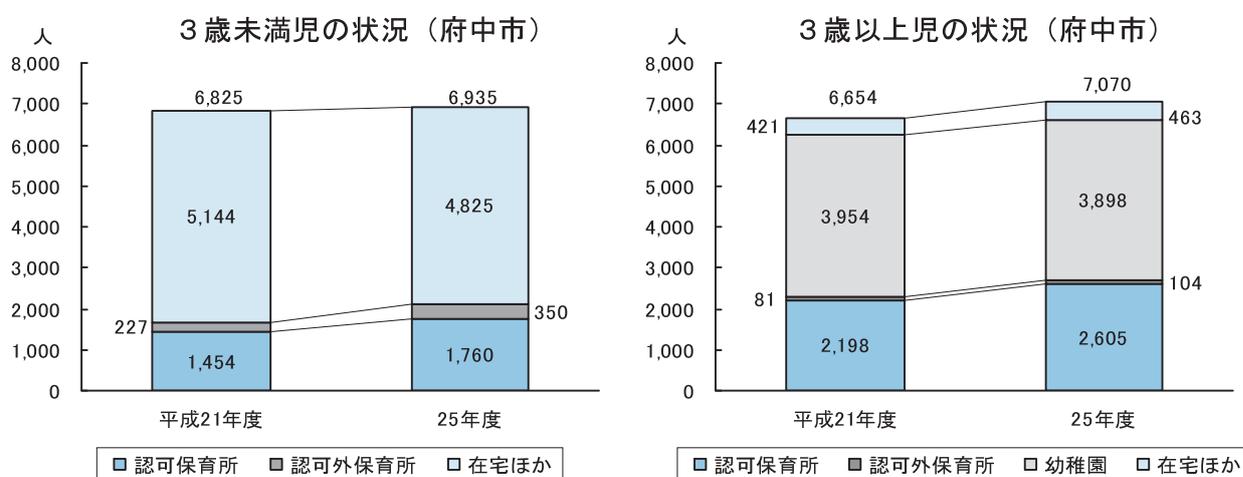


※ 数値は平成22年

(4) 就学前児童の状況

- 府中市の0～2歳児（以下「3歳未満児」といいます。）の約7割は在宅で過ごしています。
- 府中市の3歳未満児及び3～5歳児（以下「3歳以上児」といいます。）のいずれも認可保育所及び認可外保育所の入所が増えています。

平成25年度の状況を見ると、3歳未満児の約70%は在宅で過ごしています。また、3歳未満児及び3歳以上児のいずれも、平成21年度から25年度にかけて認可保育所及び認可外保育所に入所している児童が増えています。



【参考】施設種別、施設数及び定員数（府中市・平成25年度）

施設種別	概要	施設数	定員数
認可保育所	児童福祉法に基づく児童福祉施設。知事の認可を得て（公立の場合は知事へ届け出て）設置、運営。	計41施設	4,378人
認可外保育所		計20か所	556人
	○認証保育所 13時間以上の開所や0歳児からの受入れなど、東京都が定める要件を満たし、都知事が認証した保育施設、A型（駅前基本型）とB型（小規模・家庭的保育）がある。	15か所	506人
	○保育室 3歳未満児を対象とした小規模・家庭的な保育施設。	2か所	35人
	○家庭的保育事業（保育ママ） 家庭的保育者が3歳未満児を居宅等で保育する事業。	3か所	15人
幼稚園	学校教育法に基づく学校。知事の認可を得て（公立の場合は都道府県教育委員会へ届け出て）設置、運営。	計20施設	4,315人

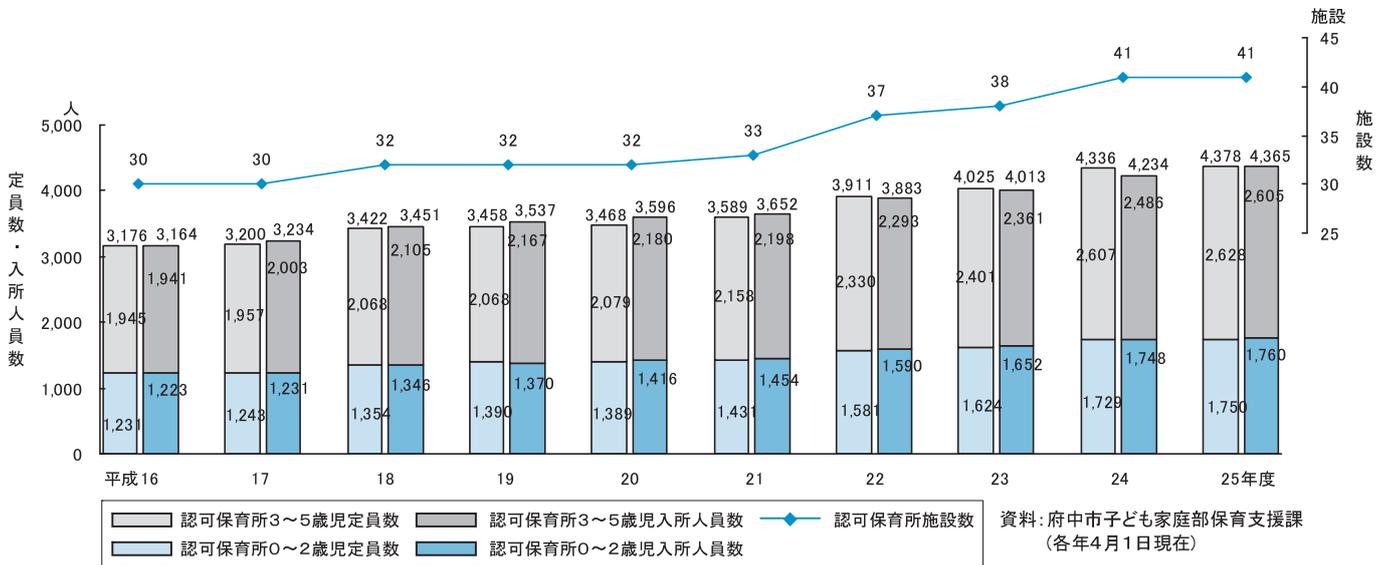
資料：府中市子ども家庭部保育支援課
（保育所は4月1日現在、幼稚園は5月1日現在）

(5) 保育所の状況

- 府中市の保育所の施設数及び定員数は、認可保育所と認可外保育所共に近年において大幅に増加しています。
- 一方で、平成25年度の保育所待機児童数は181人で、その解消に至っていません。また、待機児童の90%以上が3歳未満児となっています。

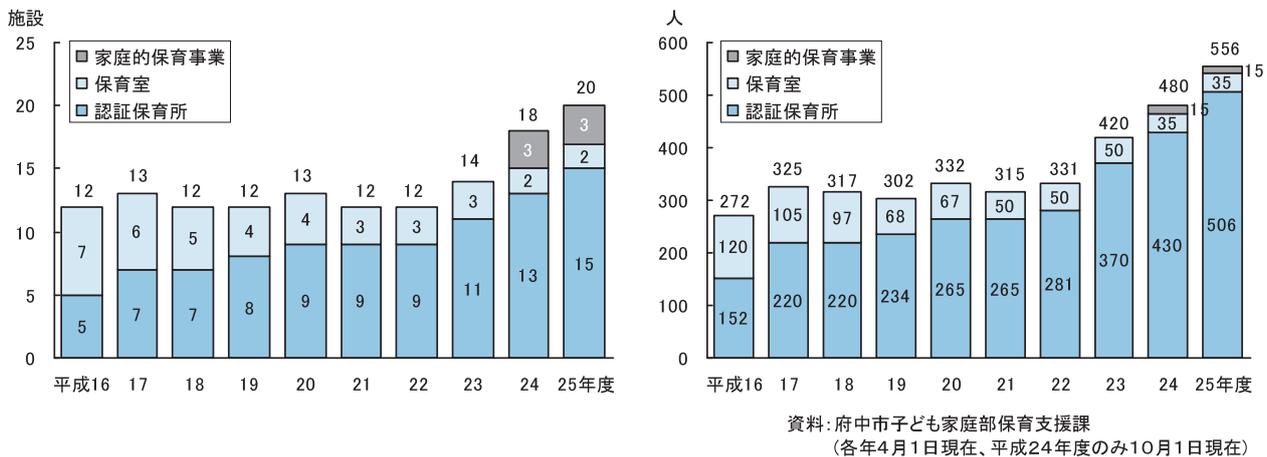
平成16年度以降、認可保育所を11施設開設し、平成25年4月現在の認可保育所数は41施設となっています。定員数では4,378人となり、平成16年度の定員数に比べて約1,200人増加しています。

認可保育所の施設数、定員数及び入所人員数の推移（府中市）



認可外保育所については、平成25年4月現在で計20施設、定員数は556人となっています。平成16年度に比べ、施設数は8施設、定員数では284人の増加となっています。

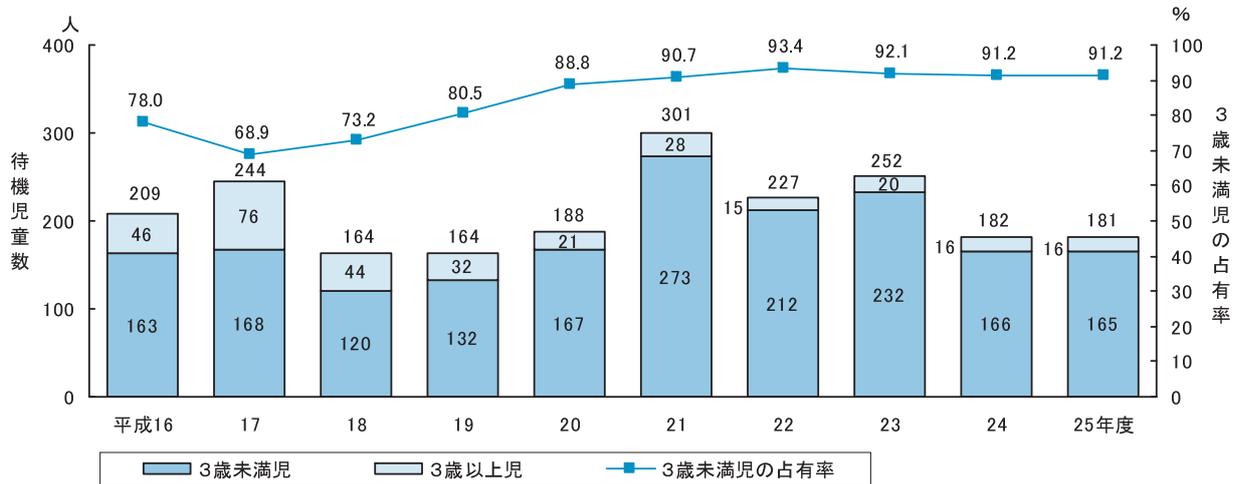
認可外保育所の施設数及び定員数の推移（府中市）



保育所待機児童数は、平成21年度の301人をピークに減少傾向にあります、平成25年度で181人となっており、依然としてその解消には至っていません。

年齢構成別に見ると、平成21年度以降は3歳未満児が待機児童の90%以上を占める割合で推移しています。

保育所待機児童数の推移（府中市）



単位：人

年齢区分	平成16	17	18	19	20	21	22	23	24	25年度
0歳児	26	34	24	29	50	62	66	78	58	58
1歳児	74	67	69	51	80	108	99	95	67	56
2歳児	63	67	27	52	37	103	47	59	41	51
3歳児	38	42	27	26	18	18	13	17	14	12
4歳児以上	8	34	17	6	3	10	2	3	2	4
計	209	244	164	164	188	301	227	252	182	181

単位：人、%

年齢区分	平成16	17	18	19	20	21	22	23	24	25年度
3歳未満児	163	168	120	132	167	273	212	232	166	165
3歳以上児	46	76	44	32	21	28	15	20	16	16
3歳未満児の占有率	78.0	68.9	73.2	80.5	88.8	90.7	93.4	92.1	91.2	91.2

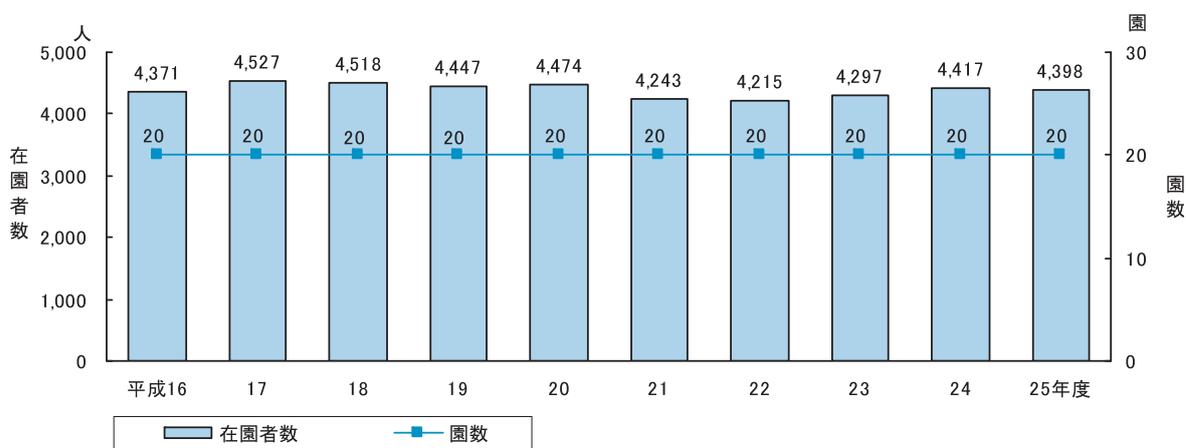
資料：府中市子ども家庭部保育支援課(各年4月1日現在)

(6) 幼稚園の状況

- 府中市には幼稚園が20園あり、17園が私立、3園が市立となっています。
- 近年における在園者数は4千人台とほぼ一定で推移しています。

幼稚園は市内に20園あり、17園が私立、3園が市立の幼稚園となっています。平成25年度の在園者数（市民以外を含む）は4,398人で、近年においては4千人台とほぼ一定で推移しています。

幼稚園数及び在園者数（市民以外を含む）の推移（府中市）



単位：人

年齢区分	平成16	17	18	19	20	21	22	23	24	25年度
3歳児	1,231	1,289	1,281	1,270	1,278	1,173	1,331	1,373	1,303	1,355
4歳児	1,564	1,630	1,601	1,581	1,576	1,494	1,387	1,533	1,558	1,482
5歳児	1,576	1,608	1,636	1,596	1,620	1,576	1,497	1,391	1,556	1,561
計	4,371	4,527	4,518	4,447	4,474	4,243	4,215	4,297	4,417	4,398

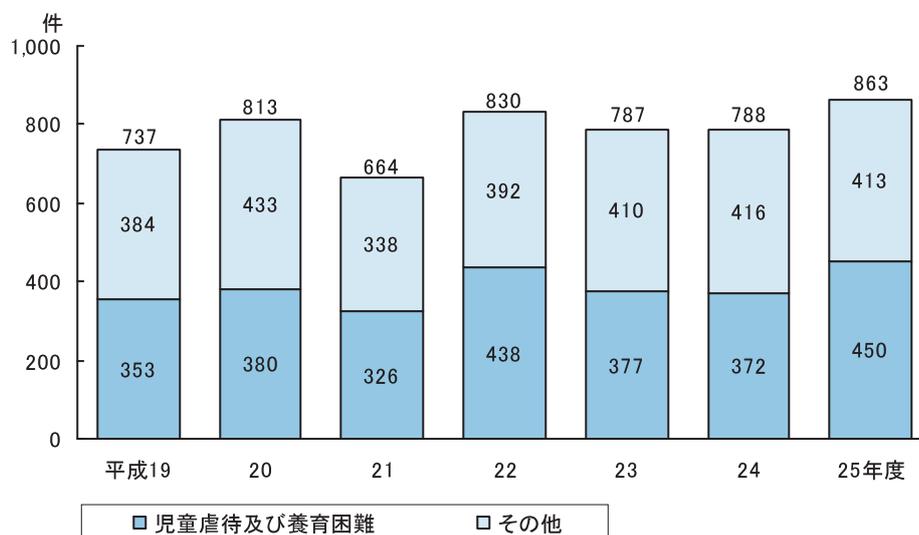
資料：学校基本調査(各年5月1日現在)

(7) 児童虐待等の状況

- 府中市の子ども家庭支援センターの新規相談件数のうち、「児童虐待」と「養育困難」を合わせた割合は、全体の約50%を占める状況で推移しています。
- 全国の児童相談所の児童虐待相談対応件数は、増加傾向にあります。

府中市の子ども家庭支援センターの新規相談件数のうち、「児童虐待」と「養育困難」を合わせた割合は約50%を占める状況で推移しています。平成25年度の新規相談件数は全体で863件と平成19年度以降では最も多く、そのうち「児童虐待」が216件、「養育困難」が234件となっています。

子ども家庭支援センター新規相談件数（府中市）



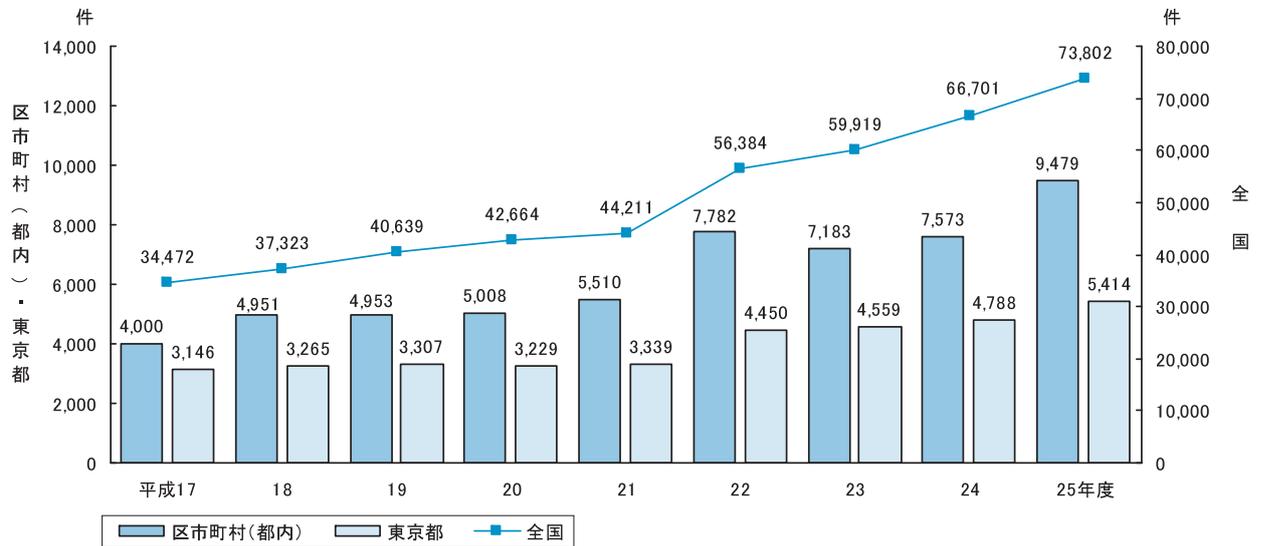
単位：件

内容	平成19	20	21	22	23	24	25年度
児童虐待	180	182	129	224	170	193	216
養育困難	173	198	197	214	207	179	234
育児相談	210	258	193	186	203	211	198
育成	37	33	27	29	40	33	64
不登校	17	20	19	10	18	19	15
障害等	27	28	34	24	27	22	16
保健相談	33	42	34	72	55	67	57
非行等	0	4	1	1	7	2	0
その他	60	48	30	70	60	62	63
計	737	813	664	830	787	788	863

資料：府中市子ども家庭部子育て支援課

全国の児童相談所の児童虐待相談対応件数は増加傾向にあります。また、東京都の児童相談所及び東京都内の区市町村の子ども家庭支援センターにおける状況も、同様の傾向が見られます。

児童虐待相談対応件数（全国、東京都及び区市町村（都内））



単位：件

区分	平成17	18	19	20	21	22	23	24	25年度
区市町村（都内）	4,000	4,951	4,953	5,008	5,510	7,782	7,183	7,573	9,479
東京都	3,146	3,265	3,307	3,229	3,339	4,450	4,559	4,788	5,414
全国	34,472	37,323	40,639	42,664	44,211	56,384	59,919	66,701	73,802

資料：社会福祉行政業務報告、
虐待相談のあらまし（2014年度版・東京都）

- ※ 区市町村（都内）：東京都内の区市町村の子ども家庭支援センターにおける児童虐待相談対応件数
- ※ 東京都：東京都の児童相談所における児童虐待相談対応件数
- ※ 全国：全国の児童相談所における児童虐待相談対応件数

2 市民の意向や子育ての現状(市民意向調査の結果より)

- ※ 前回調査時との比較については、平成20年度に実施した「次世代育成支援に関する市民意向調査」の結果との比較を行ったものです。
- ※ 図表中の「N=」は、回答者数を表します。
- ※ 複数回答形式の場合、回答比率の合計は100%を超えます。

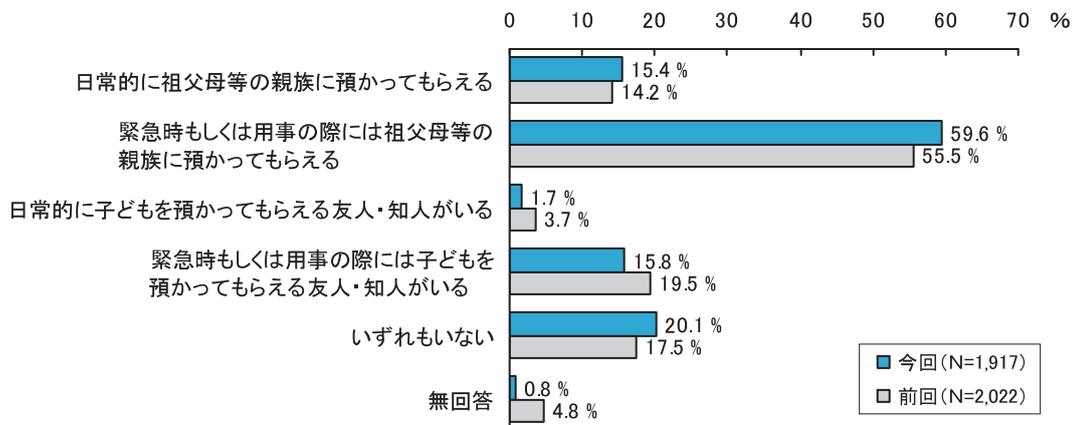
(1) 就学前児童の保護者

ア 周囲の支援の状況や子育ての仲間づくりについて

- 子育てに関して祖父母等の親族による支援を受けられる家庭は増えています。
- 友人・知人や地域とのつながりが希薄化する傾向にあります。

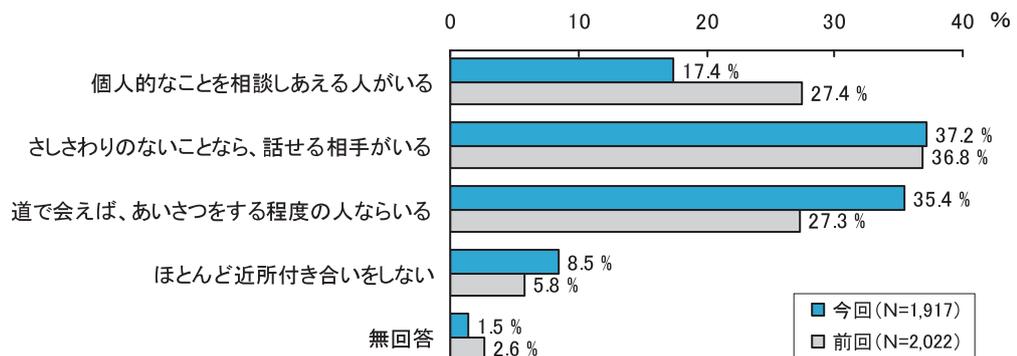
○ 子どもを預かってもらえる親族・知人について

前回調査時と比べ、「祖父母等の親族に預かってもらえる」保護者の割合は高くなる一方で、「子どもを預かってもらえる友人・知人がいる」保護者の割合は低くなっています。また、「いずれもない」保護者の割合は前回調査時よりも高くなっています。子どもを預けられる友人・知人が少なくなり、親族に頼ることが多くなっている傾向が見られます。



○ 近所付き合いについて

前回調査時と比べ、隣近所に「個人的なことを相談しあえる人がいる」保護者の割合は低くなっており、近所付き合いの仕方は浅くなっていることが分かります。

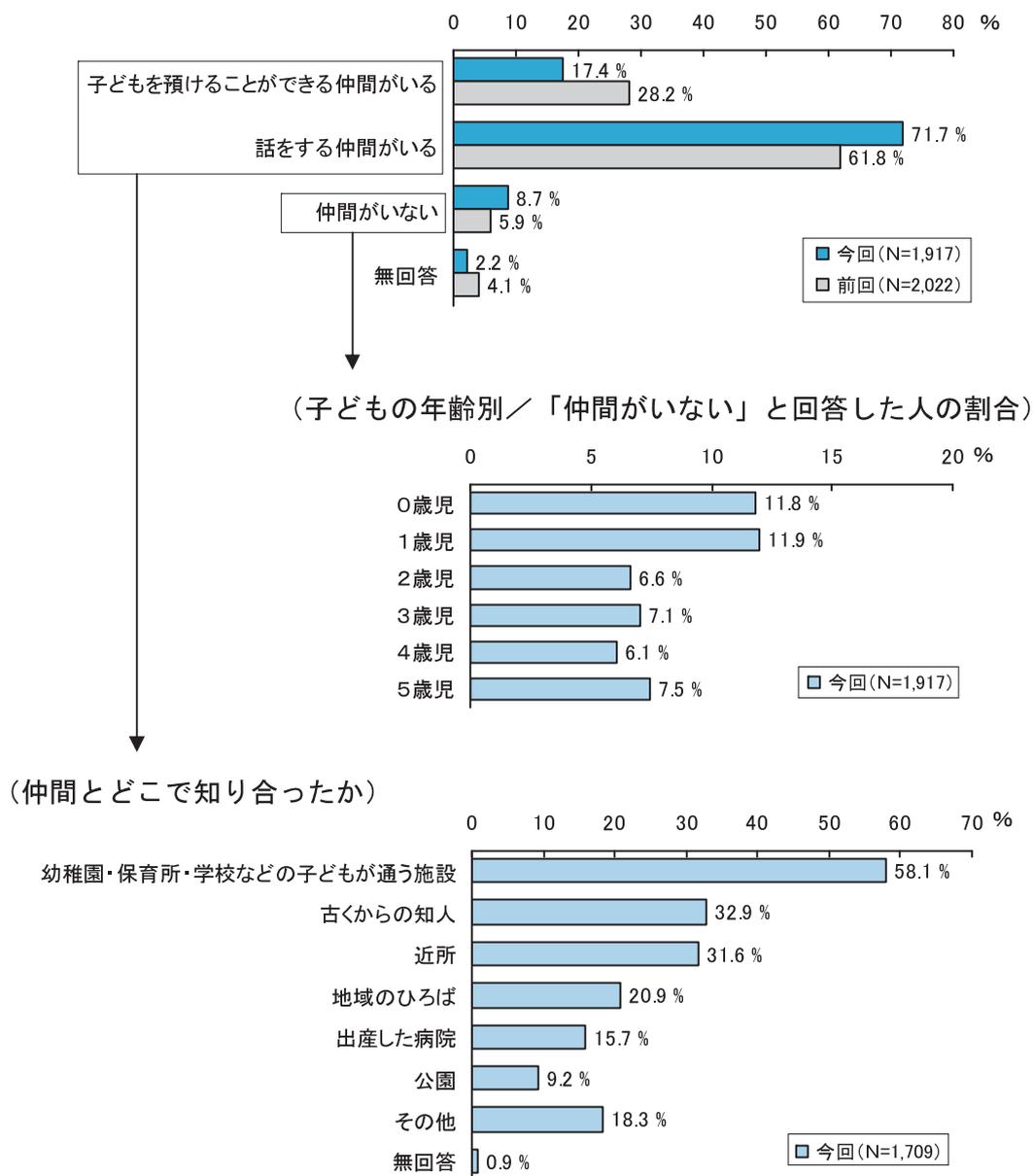


○ 子育ての仲間について

前回調査時と比べ、「子どもを預けることができる仲間がいる」保護者の割合が低くなっています。

また、0～1歳児の保護者の1割以上が「仲間がない」と回答しています。

仲間とどこで知り合ったかについては、「幼稚園・保育所・学校などの子どもが通う施設」である割合が高く、子どもが施設に通っていない保護者は、通っている場合に比べて仲間づくりの機会が少ないことが分かります。

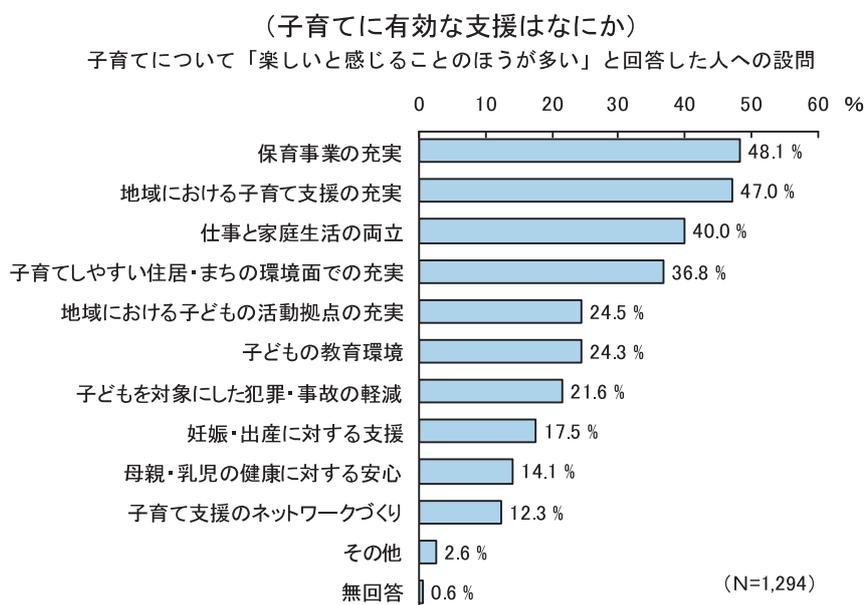


イ 子育てにおいて必要な支援・対策について

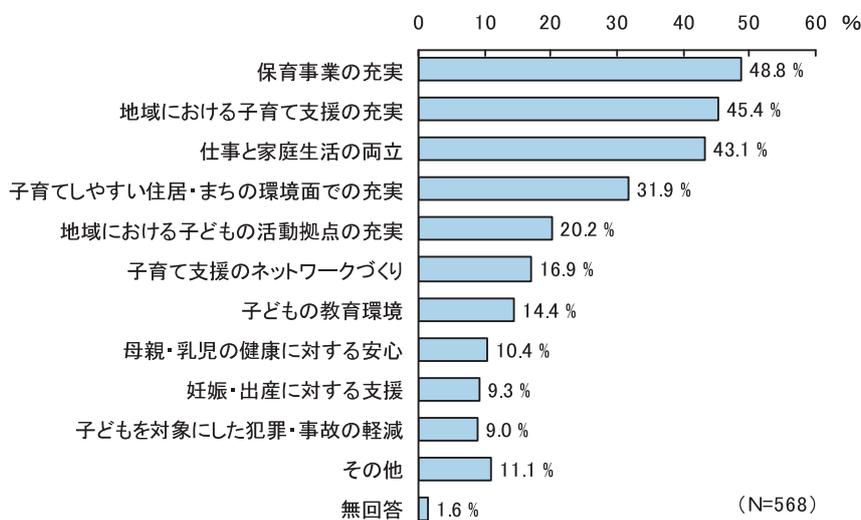
●子育てにおいて必要な支援・対策として、4割以上の保護者が「保育事業の充実」「地域における子育て支援の充実」「仕事と家庭生活の両立」が必要であると感じています。

○ 子育てにおいて必要な（又は有効な）支援・対策について

子育てにおいてどのような支援・対策が必要かについては、子育てを楽しんでいるか否かにかかわらず、「保育事業の充実」、「地域における子育て支援の充実」及び「仕事と家庭生活の両立」が共通して4割以上で上位となっています。



(子育てのつらさを解消するために必要なことはなにか)
子育てについて「楽しいと感じることと、つらいと感じることが同じくらい」、「つらいと感じることの方が多」と回答した人への設問

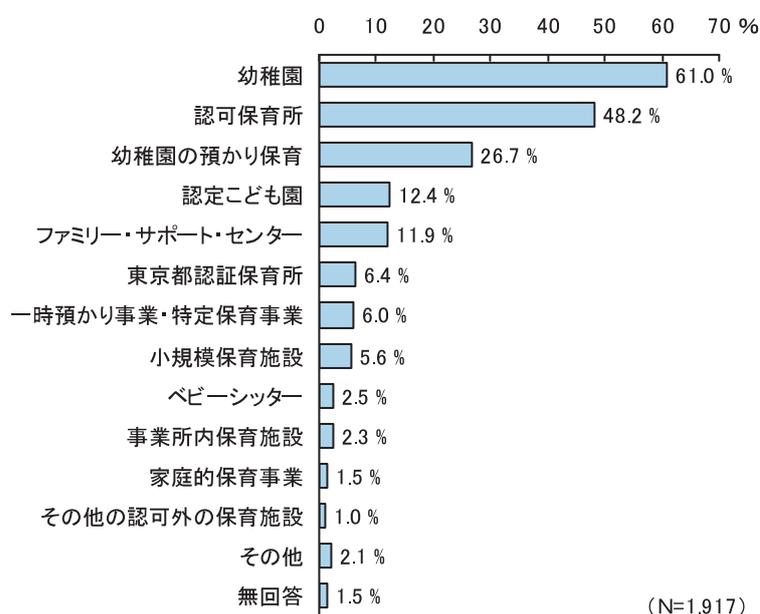


ウ 定期的な教育・保育事業について

- 定期的な利用を希望する教育・保育事業は、幼稚園と認可保育所が主な事業となっています。
- 3歳以上児の教育・保育事業の利用に際し、過半数の保護者が学校教育と保育の両方の提供を望んでいます。

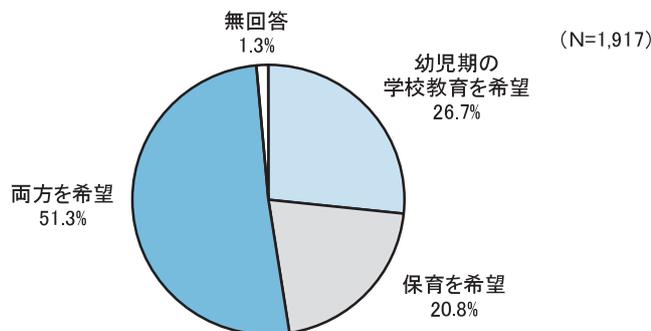
○ 定期的な教育・保育事業の利用希望について

子どもが小学校へ入学するまでの間に利用したい教育・保育事業として、「幼稚園」を希望する割合が最も高く、次いで「認可保育所」となっています。



○ 3歳以上児が教育・保育事業を利用する際に希望する教育・保育の内容

3歳以上児が教育・保育事業を利用する際にどのような内容の教育・保育を希望するかについては、「幼児期の学校教育を希望する」保護者の割合が半数以上を占めています。



(2) 小学生の保護者

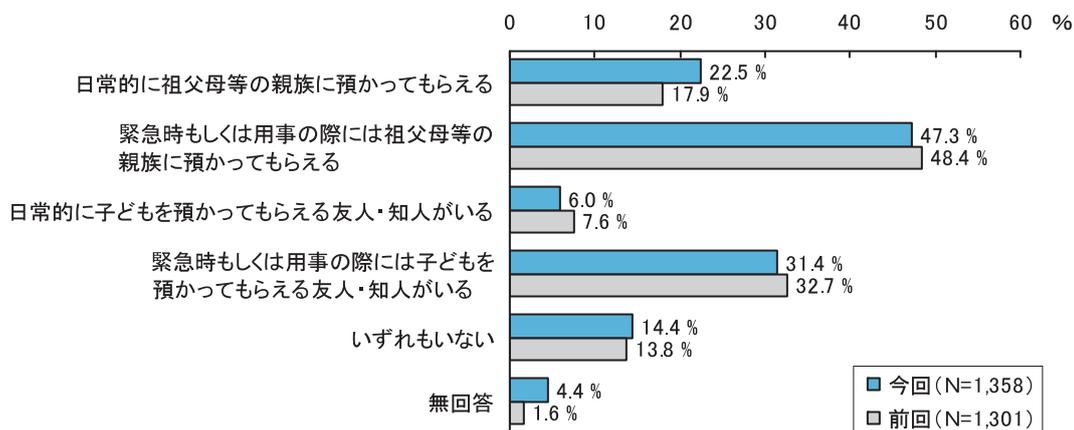
ア 周囲の支援の状況や子育ての仲間づくりについて

●就学前児童の保護者と同様に、子育てに関して祖父母等の親族による支援を受けられる家庭は増えているものの、友人・知人や地域とのつながりが希薄化する傾向にあります。

○ 子どもを預かってもらえる親族・知人について

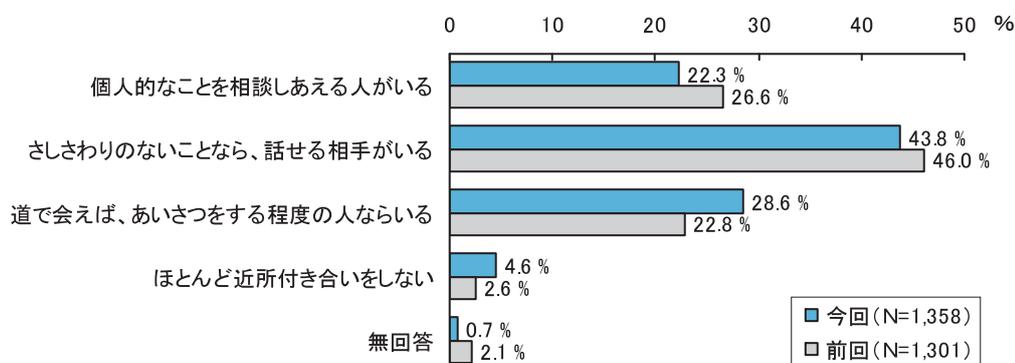
前回調査時と比べ、「祖父母等の親族に預かってもらえる」保護者の割合は高くなる一方で、「子どもを預かってもらえる友人・知人がいる」保護者の割合は低くなっています。また、「いずれもない」保護者の割合は前回調査時よりも高くなっています。

子どもを預けられる友人・知人が少なくなり、親族に頼ることが多くなっている傾向が見られます。



○ 近所付き合いについて

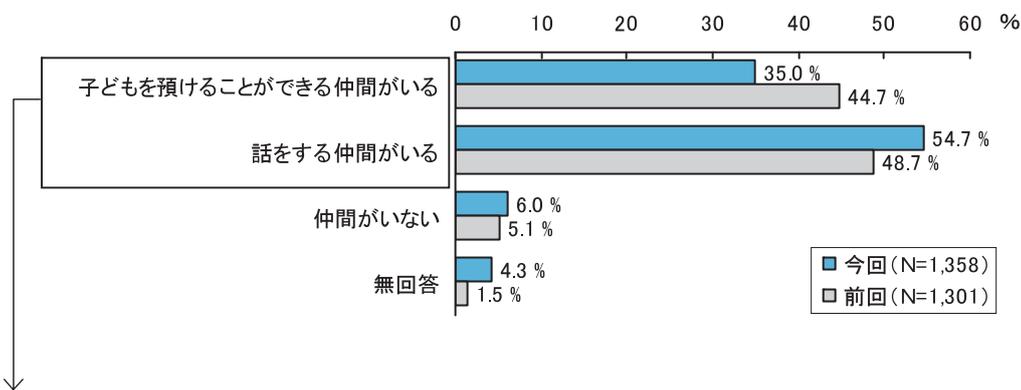
前回調査時と比べ、隣近所に「個人的なことを相談しあえる人がいる」保護者の割合は低くなっており、近所付き合いの仕方は浅くなっていることが分かります。



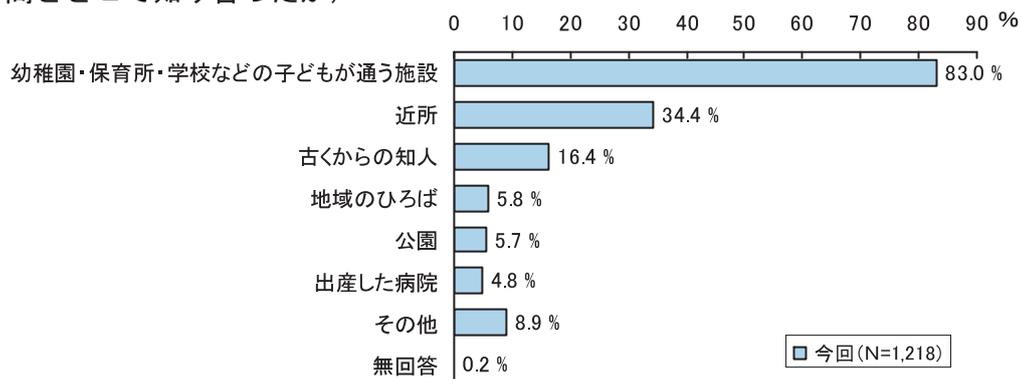
○ 子育ての仲間について

前回調査時と比べ、「子どもを預けることができる仲間がいる」保護者の割合が低くなっています。

仲間とどこで知り合ったかについては、「幼稚園・保育所・学校などの子どもが通う施設」である割合が8割を超えています。



(仲間とどこで知り合ったか)



イ 放課後の子どもの過ごし方の希望について

- 学童クラブについては、低学年の子どもを持つ保護者の3割が利用を希望しています。
- 学童クラブと放課後子ども教室については、子どもの成長とともに利用希望が低くなる傾向が見られます。

○ 平日の放課後の子どもの過ごし方の希望について

<学童クラブ>

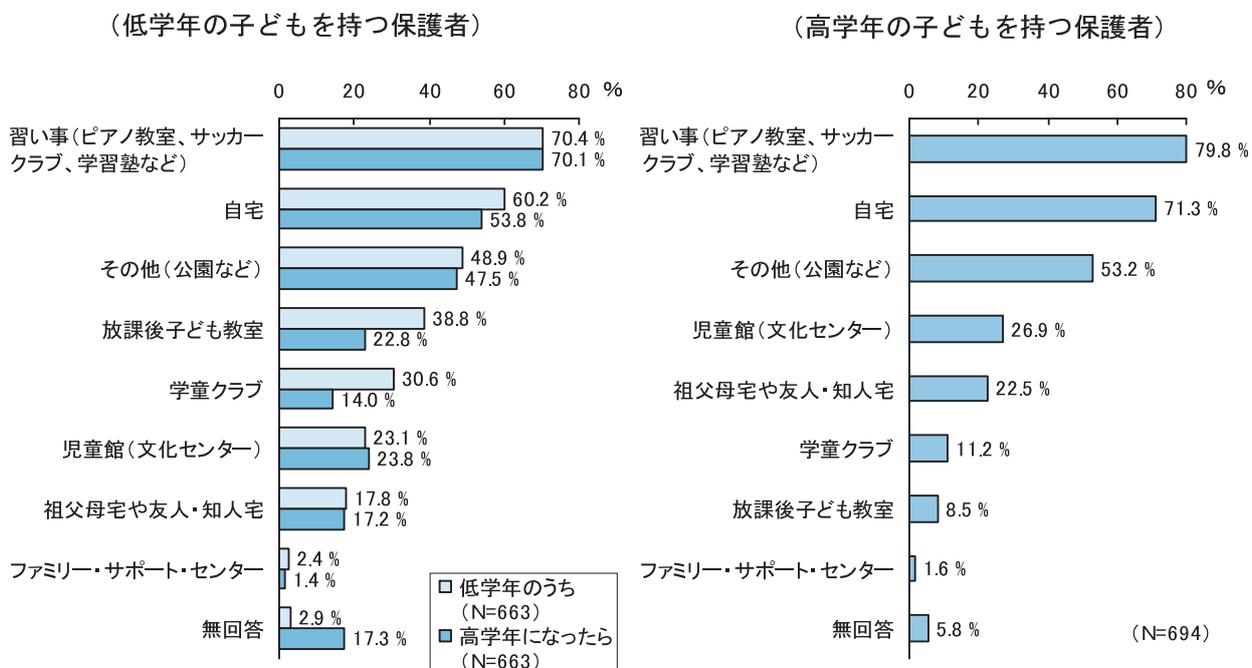
低学年の子どもを持つ保護者の利用希望は、「低学年のうちには利用したい」という保護者が3割で、「高学年になっても利用したい」という保護者は低学年の利用希望の約半分となっています。

また、現に高学年の子どもを持つ保護者の利用希望は、低学年の希望を更に下回っています。

<放課後子ども教室>

低学年の子どもを持つ保護者の利用希望は、「低学年のうちには利用したい」という保護者が4割弱で、「高学年になっても利用したい」という保護者は2割強となっています。

また、現に高学年の子どもを持つ保護者の利用希望は、低学年の希望を更に下回っています。



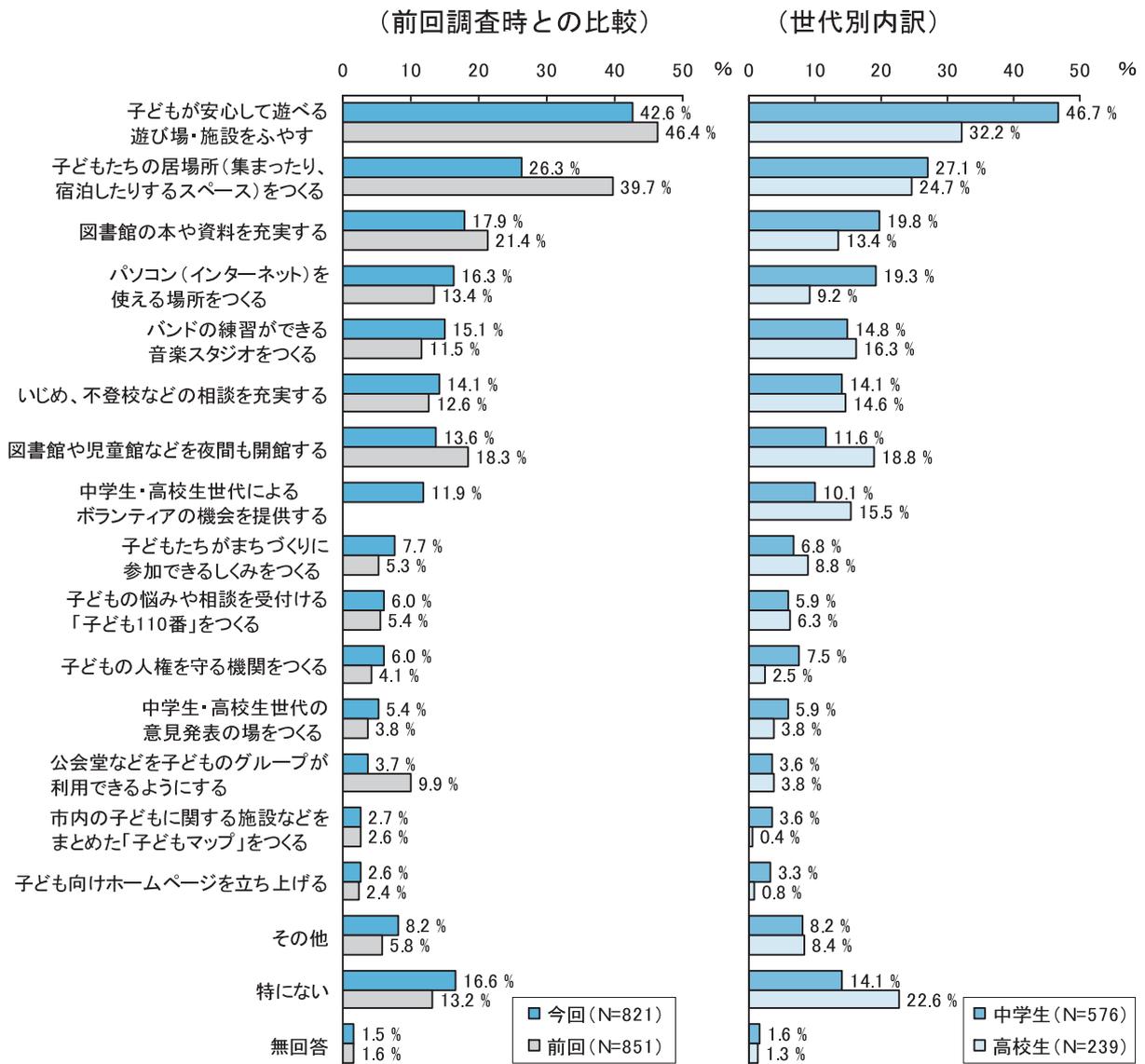
(3) 中学生・高校生世代

ア 府中市に実施してほしいこと

●中学生・高校生世代の子どもたちが市に望むこととして、安心して過ごすことのできる居場所づくりに関するニーズが高くなっています。

○ 府中市に実施してほしいこと

中学生・高校生世代共に「子どもが安心して遊べる遊び場・施設をふやす」の割合が最も高く、次いで「子どもたちの居場所(集まったり、宿泊したりするスペース)をつくる」となっており、いずれも子どもたち自身の居場所に関する内容となっています。



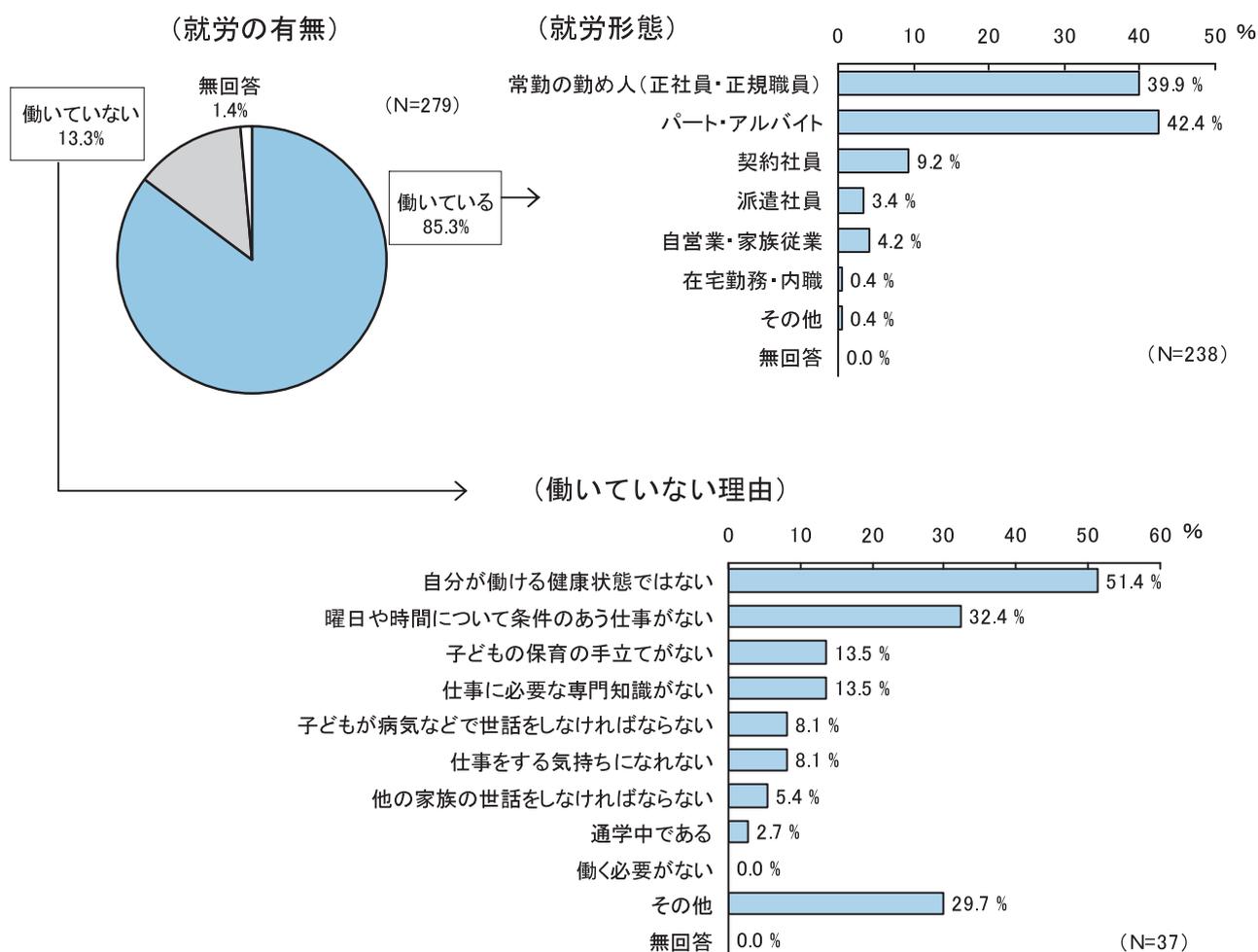
(4) ひとり親家庭の保護者

ア 保護者の就労の状況について

● 仕事のあっせんや技能習得のための経済的支援、仕事と家庭生活の両立支援など、就労に関する支援へのニーズが高くなっています。

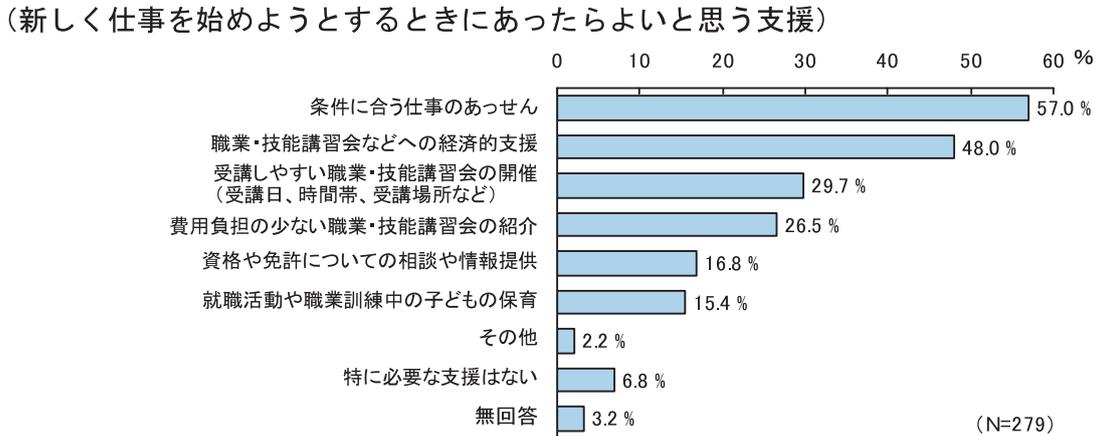
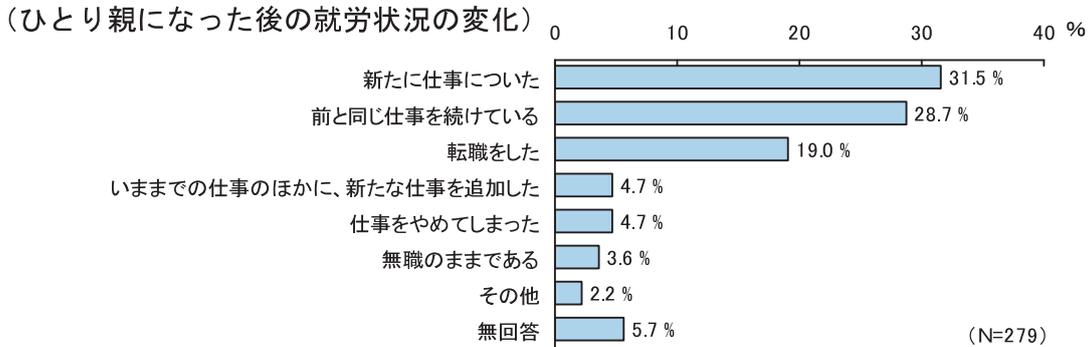
オ 就労の有無や就労形態などについて

「働いている」保護者の就労形態は、「常勤の勤め人」と「パート・アルバイト」が4割前後とほぼ同じ割合です。また「働いていない」理由として、2人に1人が「自分が働ける健康状態ではない」ことを挙げています。



○ ひとり親になった後の就労状況の変化と必要な支援について

「新たに仕事についた」及び「転職をした」という保護者を合わせると5割を超えており、新しく仕事を始めようとするときにあったらよいと思う支援については、「条件に合う仕事のあっせん」及び「職業・技能講習会などへの経済的支援」の割合が高くなっています。

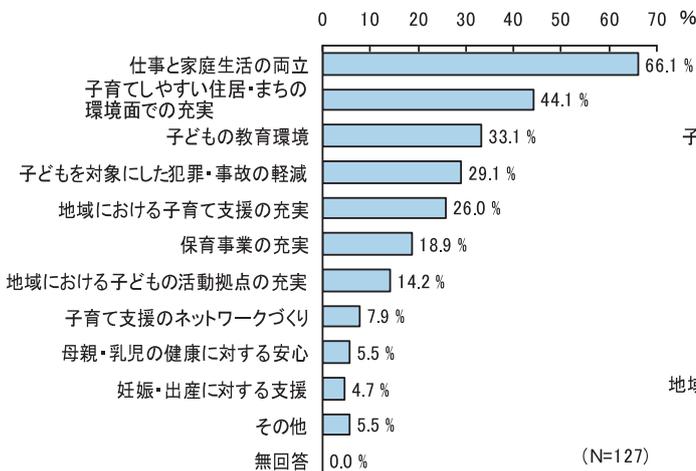


○ 子育てにおいて有効だと思う支援・対策について

子育てにおいてどのような支援・対策が有効かについては、子育てを楽しんでいるか否かにかかわらず、「仕事と家庭生活の両立」の割合が最も高くなっています。

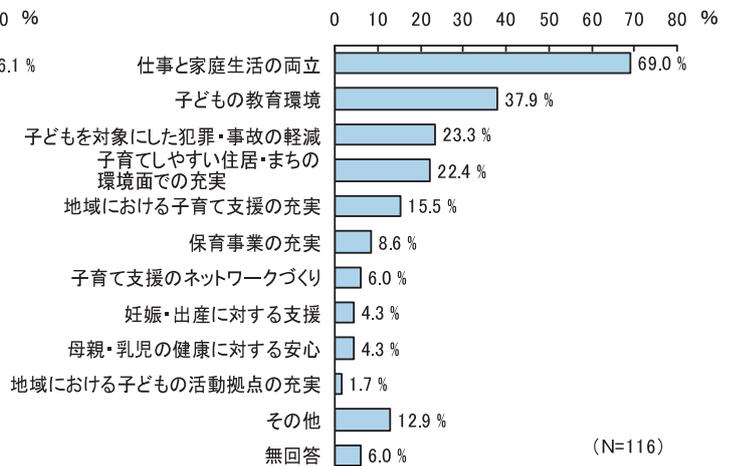
(子育てに有効な支援はなにか)

子育てについて「楽しいと感じることのほうが多い」と回答した人への設問



(子育てのつらさを解消するために必要なことはなにか)

子育てについて「楽しいと感じることと、つらいと感じることが同くらい」、「つらいと感じることの方が多い」と回答した人への設問

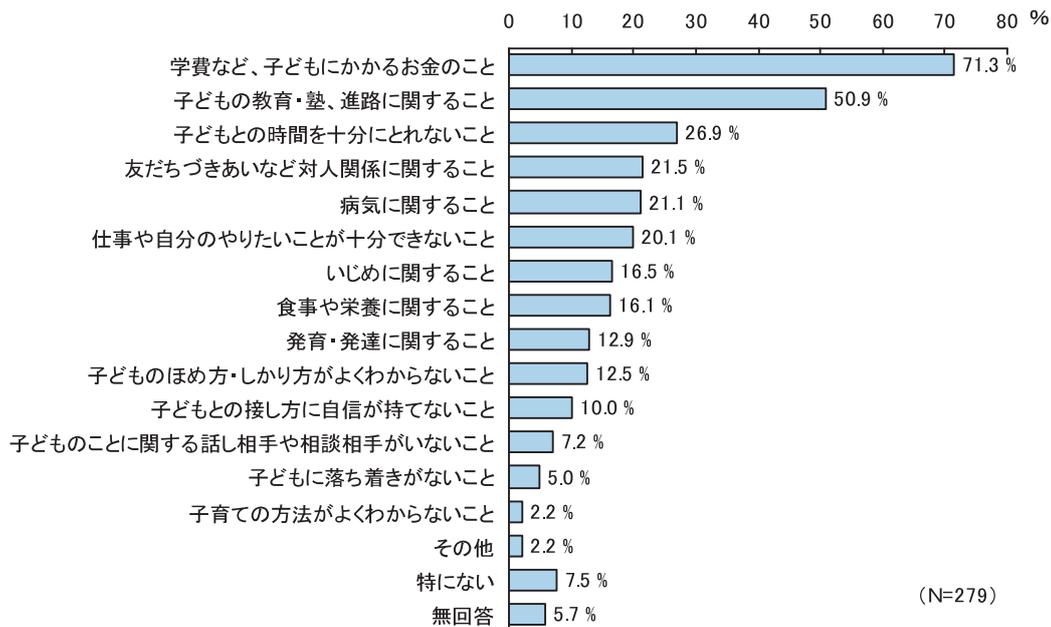


イ 子育ての状況について

●ひとり親家庭の保護者は、経済的にも精神的にも子育てに関する負担感が大きい傾向が見られます。

○ 子育てで日頃悩んでいること・気になることについて

子育てで日頃悩んでいることでは「学費など、子どもにかかるお金のこと」の割合が最も高く、他の項目を大きく引き離しています。



○ 就学前児童・小学生の保護者への調査結果との比較について

就学前児童・小学生の保護者への両調査結果と比較し、ひとり親家庭では「子育てを楽しんでいる」保護者の割合が低く、また、「子育てに不安を感じている」保護者の割合は高くなっています。

